

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立泊山小学校

校長 草川 誠

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

平成29年4月に本校は、四日市市教育委員会から四日市版コミュニティスクールの指定を受け、「泊山小学校運営協議会」（以下運営協議会）を発足させました。

学校づくりビジョンに掲げた学校教育目標「未来を切りひらき、幸せに生きる」子どもの育成のため、学校をご支援いただいている保護者や地域の方々の活動を継続・発展させ、学校教育の一層の充実を図ります。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

運営協議会は、地域団体代表、自治会代表、主任民生児童委員、PTA代表、校区内の児童養護施設や母子自立支援施設の代表等7名で構成しています。ここに、本校職員が加わり、年間5回の会議を実施し、保護者や地域住民の学校教育活動への参画のあり方を協議するとともに、保護者や地域住民の具体的な取組内容や時期等について調整を図っています。



定例の会議では、写真のように、必ず全学級の授業参観を行い、子どもの実態に即した協議を行うようにしています。協議の中で本校の強みや課題について話し合い、充実した教育活動の方向付けを行っています。本年度は昨年を引き続きコロナ禍に関連して、感染防止対策をはじめ、児童の心身への影響を心配し、校内の環境面の整備、清掃活動などについてもご意見をいただきました。

協議会の話し合いを受け、清掃道具を新たに購入したり、学級園が年間を通じて花でいっぱいになるよう委員会を中心に活動したり、屋外の掃除道具も更新したりして環境整備に努め、児童の情操を豊かにできるようにしました。

また、南部丘陵公園を校区に擁する本校では、恵まれた環境を生かす取り組みとして、運営協議会委員長をはじめ地域の「日永梅林を守る会」の方に梅林のお話や梅のちぎる時の注意事項を教えていただきながら、「梅ちぎり」体験を行うことができました。



さらに、運営委員がメンバーである地域の自主防災隊の方を講師に招き、講演と防災体験（水消火器と応急担架体験）を行いました。

講演では実際に校区において被害に遭った 49 水害（昭和 49 年に天白川等が氾濫した洪水災害）の様を語っていただいたり、体験学習では人が人を想定し、消毒後、竹と毛布で担架を作って実際に運んだりして、防災・減災に対する意識を高めることができました。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

(1)に記述した通り、コロナ禍にありながらも運営委員をはじめ地域の方々にお世話になりながら、地域教育資源を生かした特色ある教育を展開できました。

学校の現状については、参観や各種報告を元に理解いただき、適切な助言をいただくことができました。

授業においては、児童が落ち着いて学習している様子や教職員が熱心に授業をしている姿を評価いただきました。特に、タブレット等のICT機器を活用した授業で1年生が慣れた手つきで操作したり、ローマ字打ちをしたりしている姿を観て、「教職員が意識して日常的にICTを活用していること」「児童がICT機器を積極的に使用し、慣れ親しんでいること」に感心されていました。

体育館で全校児童の図工・書写作品を展示する「泊展」は大雪による臨時休校のため参観していただけませんでした。普段から教室や廊下に掲示してある作品をよく見ていただき、「図工作品で各児童の個性や感性がうまく引き出されている」という声をいただきました。引き続き、子どもたちが意欲的に表現活動に取り組めるよう、一人ひとりの思いを大事にした活動を続けていきたいと思えます。

朝の読書においては、読み聞かせのボランティアとして20人近くの登録をいただいております。保護者や地域の方に、しっとりとした読書の時間を作っていただきました。近くに寄って読み聞かせることが出来ないため、プロジェクター等を利用し、全員が絵を見ながら聞くことができました。

このように今年度も学校運営に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症ですが、運営協議会で出された環境面で子どもたちの学校生活に潤いを与える取り組みは、屋外では学級園をはじめとする校庭整備、屋内では清掃活動の徹底や廊下に配置された配膳台などの固定を行いました。丁寧な清掃活動で校内外が明るくなり、廊下等共用部分の利用について安全意識が高まりました。

総合的な成果を示す指標とし、学校評価・児童アンケート「学校は楽しい」の肯定的な回答は89.6%となっています。本校では児童の欠席が少ない状況があります。コロナ禍にあることを考えると、本来欠席が増える傾向が強いと思われそうですが、本校では学校に来るのを楽しみにして、子どもたちが元気に登校している様子が窺えます。学校環境もプラスの影響があるように思えます。

同じく児童アンケート「学力向上」においては「宿題は忘れずに、きちんとしている」の肯定的な回答が87.5%となり、高い数字を維持しています。

家庭での声かけ等の協力があってのことかと考えます。毎日休まずに登校すると同時に、家庭と連携しながら、家庭学習も充実させることで、学習効果が高まります。

3 今後に向けて

コミュニティスクール運営協議会では、毎回1時間ほど校内の様子を参観し、感想をいただいています。コミュニティスクール運営委員からは、今年度も昨年度に引き続き、児童の健康という面で新型コロナウイルス感染症対策について関心をお持ちになられ、ご意見をいただくことが多くありました。

概ね「学校は感染防止対策をよくやっている」と評価いただけてはいますが、教室や共用部分の消毒に関して具体的な回数なども尋ねられ、児童帰宅後の対策についてもご理解いただきました。

また、タブレットをはじめICT機器を活用した授業について関心が高く、様々な教科で活用されていること、児童のタブレットを扱う技術能力が向上していることなど、多くの場面を見ていただくことが出来ました。感染症対策等で自宅待機を余儀なくされた子どもたちに対する学習保障の取組については熱心に質問される場面がありました。

ポストコロナ期に向けて、感染防止に係る取り組みや感染者に対する人権問題の解決の取り組みを継続して行い、学校が子どもたちにとって安心して過ごせる居場所になるよう努力する必要があると思います。また、ICTの積極的な活用と同時に情報モラルについても計画的に指導する必要があります。

学校行事についてもさまざまな制限・制約があり、規模の縮小を余儀なくされる中、工夫して取り組みました。「梅ちぎり」体験や「6年生を送る会リハーサル公開」等、感染状況を的確に掴みつつ、保護者・地域の方々の協力を得ながら適切な感染防止対策を施し、工夫を凝らして実現できた行事もありました。

来年度も子どもたちの健康面・安全面を最優先にして、保護者・地域の方々と協働し、充実した教育活動を展開できるよう努力していきたいと思えます。